

ご紹介によりご縁をいただいた社長へ

このたびは、ご紹介によりご縁をいただき、ありがとうございます。
有限会社榮経営研究所、田山公認会計士事務所の田山毅です。
お会いする前に、少しだけ、わたしのことを知っていただきたいと思い、この手紙を書きました。
わたしがどんな思いで社長と向き合っているのかを、率直にお伝えしたいと思います。

社長には、誰にも言えないことがあると思います

社員の前では、不安な顔を見せにくい。
家族には、余計な心配をかけたくない。
銀行には、弱みを見せにくい。
税理士には、決算や税金の相談はできても、会社を本当はどうしたいのかまでは話しにくい。
社長は、たくさんの人に囲まれています。
でも最後は、ひとりで考え、ひとりで決めなければならないことが、本当に多いと思います。
迷っていても、会議では何かを決めなければならない。
不安があっても、社員の前では前を向かなければならない。
そして、決めたあとでさえ、
「本当にこれでよかったのか」
と、ひとりで考え続けることもあるのではないのでしょうか。
何かを決めれば、誰かに影響します。
決めなくても、やはり誰かに影響します。
だから迷う。
だから悩む。
それでも、前に進もうとする。
長い間、多くの会社や社長と接してきて、わたしは、社長という仕事は本当に大変な仕事だと思うようになりました。
そして同時に、強く感じていることがあります。
社長ほど、会社のことを考えている人はいない。

会社のことを本気で考えているからこそ、迷う。
社員のことを本気で考えているからこそ、簡単には決められない。
未来のことを本気で考えているからこそ、不安になる。
わたしは、そんな社長を見ると、どうも放っておけません。

税理士は、誰のために仕事をするのか

若い頃、わたしは中小企業の会計や税務、税務調査対応を学びました。
そこで教わったことの中に、今でもわたしの仕事の根っこになっている考えがあります。

社長のために仕事をする。

ということです。
わたしは、これをサムライ精神だと思っています。
税務署と何でも争えばよいとは思いません。
反対に、税務署の言うことだからと、何でもそのまま受け入れればよいとも思いません。
事実を確かめる。
自分の頭で考える。
必要なことを説明する。
そして、言うべきことは、きちんと言う。
税理士は、誰のために仕事をするのか。
わたしの答えは、昔から変わりません。
ご縁をいただいた中小企業と、その社長のためです。
だから、いざというときに、社長ひとりに不安を背負わせたくありません。
必要なときには、わたし自身が向き合います。
それが、わたしの仕事だと思っています。

公認会計士として数字を見る。税理士として社長の側に立つ。

わたしは、税理士であると同時に、公認会計士でもあります。
大企業の仕組みも、中小企業の現場も見てきました。
会社が順調なときも、苦しくなっていくときも見ました。
再生にも関わり、社外役員として経営判断の場にも立ってきました。
そうした経験を重ねる中で、強く思うようになったことがあります。

数字は、過去を説明するためだけにあるのではない。

決算や申告は、もちろん大切です。

でも、それだけで本当に社長の役に立ったと言えるのだろうか。

社長が本当に見ているのは、未来です。

これから会社をどうしたいのか。

社員にどうなってほしいのか。

何に挑戦したいのか。

どんな会社を残したいのか。

それぞれの社長に、それぞれの思いがあります。

その社長が目の前で本気で悩んでいる。

何かできることがある。

一緒に考えられることがある。

それなのに、

「それは会計事務所の仕事ではありません」

と言って終わることは、わたしにはできません。

会計事務所の仕事かどうか。

コンサルタントの仕事かどうか。

正直に言えば、わたしにはあまり重要ではありません。

目の前の社長に必要かどうか。

その方が、ずっと大切です。

公認会計士として、数字は厳しく見ます。

税理士として、社長の側に立ちます。

そして、目の前の社長が本気で悩んでいるなら、わたしも本気で考えます。

ただ、最後に決めるのは、社長です。

わたしが答えを決めるのではありません。

まだ見えていないものを一緒に見て、大切なことを一つずつ考える。

必要なことは、率直にお伝えする。

そのうえで、社長自身が納得して決める。

それが、わたしの役割だと思っています。

わたしが、本気で応えたい社長

わたしが本気で応えたいのは、完璧な社長ではありません。

迷わない社長でもありません。

いつも正しい答えを出せる社長でもありません。

会社を良くしたいと、本気で思っている社長です。

社員を幸せにしたいと思っている社長です。

もっと良い会社にしたい。

新しいことに挑戦したい。

この会社を次の世代につないでいきたい。

自分らしい経営を実現したい。

そう考えながら、日々悩み、迷い、それでも前に進もうとしている社長です。

わたしは、そのような社長に惹かれます。

本気だから迷う。

本気だから悩む。

本気だから、簡単には決められない。

わたしは、その迷いや悩みを、弱さだとは思いません。

会社と、社員と、その未来を真剣に考えている証拠だと思っています。

だから、うまくいっている話だけを聞かせていただく必要はありません。

困っていることも。

迷っていることも。

まだ誰にも話していないことも。

そのまま大丈夫です。

数字の見方が変わるだけで、会社そのものが違って見えることがあります。

ひとつの問いをきっかけに、ずっと決められなかったことに答えが出ることもあります。

そして、話しているうちに、

「自分は、本当はこうしたかったのかもしれない」

と、社長自身もまだ言葉にできていなかった思いが出てくることがあります。

会社の中には、まだ見えていないものがある。

社長の中には、まだ言葉になっていないものがある。

わたしは、それを一緒に見つける時間が好きです。

社長の話を聞き、数字を見て、一緒に考える。

その中から、社長自身が納得できる次の一步が見えてくる。

そんなふうに、これからのことを社長と一緒に考えていけたらと思っています。

お会いしたときは、何でも聞いてください

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

お会いしたときには、どうぞ何でも聞いてください。

うまく話をまとめる必要はありません。

思っていることを、そのまま聞かせてください。

分からないことは、分からないと申し上げます。

すぐに答えが出なければ、一緒に考えましょう。

わたしも、社長の話を聞くのを楽しみにしています。

この手紙を読んでいただいたので、当日はもう、自己紹介から始めなくてもよさそうです。

お会いしたら、

「では、続きを話しましょう」

田山 毅

公認会計士・税理士

有限会社榮経営研究所

田山公認会計士事務所